



特集

未来に伝えたいびんの魅力と3R

未来を担うこどもたちに、ガラスびんの魅力や3Rを理解してもらうために、学校の授業で、どのようにアプローチしていけばよいのでしょうか？
座談会において、小・中学校の先生方に貴重な生のメッセージをいただきました。

ますます高まる環境教育の重要性。
目的は持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成。

地球温暖化やエネルギー問題をはじめ、環境に関するさまざまな問題が深刻化する中、環境教育の重要性が高まっています。まさに美しい地球環境を後世に残していくために大切なのは、未来を担うこどもたちに、環境を守る意識をきちんと伝えていくことです。環境教育のねらいは、「持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成」で、現在、全国の小・中学校では「持続可能な開発のための教育=ESD*」をテーマに、さまざまな授業が展開されています。

ガラスびんの3Rを推進する当協議会では、小学生を対象にしたムービーやリーフレット、キッズサイトを作成。また10年ほど前からエコプロダクツ展に出展、3年前よりポスターコンクールを開催して、こどもたちへの啓発活動を実施してきました。さらに今年度の広報対策として、環境教育の現場教員からのニーズ把握による小中学生向け施策の改善と拡大を目指しています。

※ESD= Education for Sustainable Development



▲ 小・中学校の先生方との座談会

環境教育の現状からびんの魅力と3Rの授業について、小・中学校の先生方6名と座談会を開催。

学校における環境教育の現状把握と、ガラスびんの魅力と3Rのこどもたちへのアプローチ方法をつかむことを目的に、去る6月22日、日本ガラス工業センター会議室において、小・中学校の先生方と座談会を開催。校長先生をはじめさまざまな教科を担当されている先生方6名と、当協議会からは広報部会メンバー5名に加え、リサイクル部会長代理とリユース部会長が参加しました。

当日は、当協議会で提供している広報ツールについて、実際に授業で展開するうえでの評価と改善点、さらにガラスびんの魅力や3Rについて、授業で展開させるため教材の在り方等、貴重なご意見をいただきました。予定していた2時間を過ぎても話は盛り上がり、座談会後の懇親会でも意見交換をさせていただきました。

今回の座談会で先生方からいただいたご意見は、今後、具現化に向けて取り組んでいきたいと考えています。

本座談会において、出席者の発言は学校名や個人名を掲載せず、下記の記号で区分しています。

- …小学校 学校長
- …中学校 学校長
- …小学5年(総合学習)
- …中学2年(社会)
- …小学4年(体育)
- …中学2年(美術)
- ▲ …ガラスびんリサイクル促進協議会



▲ 昨年度の絵画・ポスターコンクールの中学校部門優秀賞作品

ガラスびんの魅力とガラスびんの3Rについて、子どもたちに理解してもらうために――



私たちは、容器が多様化する時代に、子どもたちにガラスびんの魅力を理解してもらい、さらにガラスびんが3R(リデュース・リユース・リサイクル)のすべてを可能にしている容器であることを理解してもらいたいと考えています。

そこで、我々の団体が子どもたちにどのようなアプローチをしたら効果的なのか、また学校教育の場において、どのようなことができるのか、さらに学校教育で取り上げていただくために、どのようなサポートが必要なのか等について、いろいろとご意見をいただきたいと思います。

資源循環の授業について

――環境教育を実践するに当たり、「持続可能な社会づくり」というのが大きなテーマになっていると思いますが、実際に教育の場では、「資源循環」さらに「3R」について、どのように取り上げられているのでしょうか？まずは小学校の先生方にどのような取り組みを行っているのかお聞きしたいと思います。

持続発展教育「ESD」に取り組む上で、大切なのは有限性・未来予測性・自己制御。

● 私の学校では、持続発展教育「ESD」に取り組んでおります。開校3年目ですが、ユネスコスクール*として、「どんな学習で子どもたちを支えていくか」ということを、一步一步勉強しております。



小学校 学校長

「ESD」には、有限性・未来予測性・自己制御という三つのキーワードがあると言われています。有限性というのは、社会を構成する物事や人との関係には限りがあるということで、ESDには不可欠な要素です。また持続可能な社会づくりのためには、過去や現状を知るだけでなく、未来について見通しを持つことが必要であると言われています。これが、未来予測性です。さらに、将来も持続可能な社会を継続させるためには、今の自分たちの暮らしや経済活動の在り方を見直すというのが自己制御にあたります。

資源循環に関する環境学習は、4年生の総合学習の時間が中心で、そのもとになっているのは社会科ですので、詳しい状況については担当の先生のお話をお聞きしたいと思います。

*ユネスコスクール:世界約9,000校の加盟校とのネットワークを活かして、地球規模の問題や環境教育などに、活動や体験を通して継続的に取り組む学校のことで、ESDの推進母体です。日本では、2011年11月現在328校が加盟しています。

3年生、4年生で、2年続けて清掃工場を見学。資源物のリサイクルについては出前授業で学習。

● 本校では、3年生が市内の様々な施設を一日かけて社会科見学するという行事があり、そのときに清掃工場にも行きます。ただし、

ごみの学習は4年生で実施することになっていますので、3年生では、市内のこの場所に清掃工場があるということ、ここに燃やせるごみが集められて焼却されること、燃やせないごみは最終処分場に送られるということ、何となく知るだけになります。

4年生になると、授業でごみの学習を行い、あらためてもう一度清掃工場に行き、勉強したことを自分の目で見て確かめてくることにしています。3年生の時の社会科見学とは違い、子どもたちは、自分が気になっているごみ問題について調べたいという意識を持っていて、意欲的に見たり、聞いたりします。また、そこでわかったことを学校に持ち帰り、まとめたりもします。ただし、この清掃工場は、燃やせるごみと燃やせないごみしか扱っていないので、実際にはびんや缶やペットボトルといった資源物の分別状況を見学することはできません。

そこで本校では、資源物に関する学習については、リサイクルを専門に扱う施設の方や市の職員、さらにごみの減量に取り組んでいる主婦のボランティアの方に、出前授業をしていただいています。出前授業では、家庭から出る廃棄物がどのように分別されて、リサイクルされていくのかを勉強します。その中でガラスびんについても、どのように再資源化されているのかを学習しました。

ごみ調べをすることにより、リサイクルの大切さを学ぶ。家庭においてびんリユースを啓発していくことも大切。

● 4年生の社会科では、ごみ問題を扱います。排出されたごみの流れにより、社会の仕組みを学ぶということなのですが、その中で、家庭からどんなごみがどれくらい出ているのかという、ごみ調べというのをやっています。燃やせるごみやプラスチックが多いとか、びんや缶やペットボトルはリサイクルされているということを調べてみることで、ごみ問題を子どもたちに実感させます。それにより、ごみをたくさん出す



小学5年(総合学習)



小学4年(体育)

と処理が大変で、リサイクルすることは大切なことだということを知り、環境に目を向けさせるのが、4年生の社会科における環境学習の流れです。

3Rについては、リサイクルという言葉が圧倒的に広まっていますので、「リサイクルの前にもう二つ、もっと大事なことがあるんだよ」ということで、リデュースとリユースについても触れます。そのときに、ガラスびんに特化するわけではなく、広く3Rについて社会科の学習の中で扱っているという状況です。子どもたちにとって、ペットボトルや缶は身近にある容器ですが、ガラスびんについても、生協の宅配びんでリユースしている家庭もあり、「お母さんがびんを洗って返している」という話も聞きます。そういう意味では、ごみ調べを通して、家庭でびんのリユースを啓発していくことも大切なのかなと思っています。

— 中学校の環境学習では、「地球環境」や「エネルギー問題」など、テーマが広がっていくように思うのですが、いかがでしょうか？

中学校における環境教育のテーマは地球規模へ。小学校で学んだことを生活の中で実行することも大事。

■ 中学校では、小学校ほど生活に密着した環境に関する授業は少ないように思います。小学校の時に身近なことで環境に興味を持ち、中学校ではもう少し世界規模になっていくのではないのでしょうか。例えば、化石燃料と原子力を比較しながら、地球規模でエネルギー問題を考えてみるといったようなことが多いと認識しています。



中学校 学校長

私は、専門が美術なので、ポスターコンクールの審査をしたりするのですが、環境に関するポスターはけっこう多いですね。中学生が扱う環境のテーマは、あまり細かなところに目を向けず、「資源を大切にしよう」とか「化石燃料あるいは原子力を使わない自然エネルギーに切り替えていこう」といったことが多いのではないのでしょうか。ポスターでは、地球を絞って地球が泣いているようなイメージで、限りある資源を大切にすることを表現するといった捉え方が多いような気がしています。

また、中学生になって大事なことは、小学校の時に学んだことを、自分の生活の中でしっかり身につけていくことだと思います。この頃、社会も変化してきて、廃棄物を燃やせるごみと燃やせないごみに分けるだけじゃ済まなくなってきました。中学生に限らず、容器包装などの分別が、実際に生活の中で実行されるという視点が、環境を学んでいく上で大事なのだと思います。

まずは環境について日常の問題として捉えて、最終的に世界規模で捉えていくようにもっていきたい。

■ 現在、文部科学省の指導要領の中には、いろいろな分野が入り込

んできています。例えば、それが環境教育だったり、法教育だったり、金融経済教育だったり目白押しになっています。ですから、環境教育のすべての領域を取り上げることが、なかなか難しいと思っています。

私は地理の教科において、資源・エネルギー問題を取り上げる場合、「将来に向けて水力・原子力・火力の発電量では無理であれば、次期持続可能なエネルギーとしてはどのようなものを選んでいくべきか」といったテーマで、ディベートを行います。例えば6班に分かれて、それぞれが学習したことで提案させていきます。最終的には、そのディベートの中から一番いいものを選ぶのではなく、いろんな意見を合わせながらベストミックスはなんだろうか、ということを考えて実践しています。

また公民の教科においては、地方自治と結び付けて、自分の生活の身近な体験の中から、環境に関する課題を設定させ、それをどのようにして解決していくかを議論させたり、あるいは発表させたり、あるいは地域をまわって調べさせたりします。このようにして、まずは環境について日常の問題として捉えていく学習をして、最終的には世界規模で環境を捉えていくようにもっていきたいと考えています。

子どもたちにとっては、環境問題について調べたり、それを話し合ったり、あるいは提案したりすることは、なかなか難しいことではあります。ですが、ただ単に知識を理解させるために、子どもたちに話をして暗記をさせるような学習をしても、将来的に身に着かないように思います。やはり、子どもたちが自分から積極的に取り組んで行くことが大切で、そのような意識をもって、子どもたちを育てていこうと考えています。

環境保全や自然愛護などへの貢献は、授業だけでなく日常生活での実践が大切。

■ 私の担当は美術なのですが、指導要領で環境をテーマにしたものはないようです。他の教科の先生方に聞いてみたのですが、理科ではエネルギーの転換について、国際視野にたって環境について考える授業を行っているとのことでした。他に、スーパーなどの容器包装がどのようにリサイクルされているのかを、調べさせているという家庭科の先生もいました。

また3Rという言葉はさかんに使われるのですが、それを生徒が実践するためには、道徳性や心の中の規範意識などが根付いていないと、環境教育は徹底できないように思います。実際に環境保全や自然愛護などに貢献していくためには、教科の授業だけでなく、担任の学活や日々の生活の中で、子どもたちと一緒に、廃棄物の分別などを実践していくことが大切です。それをくり返すことが、真の環境教育につながっていくのではないかと考えています。



中学2年(社会)



中学2年(美術)

ガラスびんの魅力の授業について



—私たちは、「ガラスびんの3R」を推進する団体ですので、授業の中で「ガラスびん」を取り上げていただけたらうれしいのですが、残念ながら、昔のように子どもたちがリターナブルびんを酒屋に

持っていくこともなく、暮らしの中で、子どもたちが、あまりガラスびんに接していないという現状があります。まずは、ガラスびんについて、先生方はどのような印象をもっておられるのでしょうか？

個人的にガラスびんのことを大好き！ 上質な時間を使っているような感じがする。

■ 基本的に私はガラスびんのことを大好きです。例えば、ガラスびんに入ったお茶をガラスのコップに注いで、コップを手に持って飲むというプロセスは、とても美味しそうに感じますね。単に水分を補給すればいいということではなく、なにか上質な時間を使っているような感じがします。ガラスびんに入った飲み物を注ぐコップは、やはりきれいに洗っておかなければならない。手間がかかるけど、キラッと輝くコップで飲むことに喜びを感じたりしますね。



人の満足というのは、どれだけコストをかけたかということではなく、どれだけその行為により心地よくなったか、ということだと思います。私としては、ガラスびんから注がれるコップが自分のお気に入りだったら、さらに満足を得られますね。そういうことも、生きていく上での小さな楽しみなのではないでしょうか？

手づくり料理をあきびんに保存している。 日本酒はやっぱり味わいがある一升びんがいい。

● 私もガラスびんは好きで、あきびんを手づくり料理の保存に使ったりもしています。使い終わったジャムの広口びんなどを洗って、棚の奥にしまっておき、佃煮なんかを作った時に、それに入れて保存するのです。やはり他素材の容器に入れるよりも、味わいがありますね。

それと、私は日本酒が大好きで、一升びんも大好きです。イメージとして「一升びんが似合うね」と、時々言われたりもします。日本酒に関して言えば、ただ飲めればいいというものではありません。容器の味わいも大切で、紙パックやペットボトルのお酒もありますが、私は一升びんでなければだめですね。

お客さまのおもてなしで思い出すのは、 大びんに入ったビールと桶に入ったお寿司。

■ 私が子どもの頃、母がお客さまをもてなすのが好きだったもの

で、お客さまが来る時には、大びんのビールを酒屋に頼んだり、桶に入ったお寿司の出前をとったりしました。今では、缶ビールを紙コップで飲んだり、お寿司もバック入りだったりすることもあり、昔とは随分と変わってしまったようです。当時は、びん入りのビールをガラスのコップで出すことが、おもてなしのひとつだったのだらうと思います。味わいも美味しさも違いますよね。

—では、子どもたちに「ガラスびんの魅力」をわかってもらうためには、どのような授業が考えられるでしょうか？ また、子どもたちに対し、「ガラスびん」に興味を抱かせるために、どのようなことが必要でしょうか？

■ 美術の授業ではガラスびんの絵を描いたりします。また、ガラスびんを細かく砕いてエッジを研磨したカレットを授業で見せたりすると、その透明感やきれいな質感に、生徒たちは興味を持ちますね。形や色が子どもたちに与える印象というのは、非常に大きいと思います。



今までの先生方の話を聞いていて、用途を考えながらガラスびんをデザインする授業も、できるのではないかと感じました。

びんを酒屋に持っていくとお得だということを知ったら、 他素材容器よりガラスびんに心が動くかもしれない。

● 私が子どもの頃は、リターナブルびんを酒屋へ持っていくと、びん代が返金されましたが、もし今もそうだとしたら、そのことをほとんどの人がわかっていないように思います。子どもは、深く理解したことや自分が納得したことは、きちんと実行します。ですから、使い終わったびんを酒屋へ持っていくと、お金がもらえてお得だということを知ったならば、他素材容器よりもびんが復活するのではないのでしょうか。

実は、私の子どもが通っている中学校では、校内の自動販売機でペットボトルや缶に入った飲料を購入した際、その容器を返却すると10円が戻ってくる仕組みになっています。そのことを理解している生徒たちは、飲み終わった容器をそこらへんに捨てたり、家に持ち帰ったりしないで、学校で飲んで、きちんと決められたところに戻し10円を受け取っています。99%の回収率だということですので、びんでもやっとならいいと思いました。



授業より日常生活の中でガラスびんに親しめると、 ガラスびんの魅力を発見しやすい。

● 授業の中でというよりは、学校や家庭における日常生活の中でガラスびんに親しめると、その魅力を発見しやすいと思います。私は、小学生の頃からあきびんに対して魅力を感じていました。びんにビーズを入れてキラキラするのを眺めたり、いろんな形のびんを集めて並べてみたりするのが好きでした。その感覚は、インテリアの雑誌に出てくるシーンに好感を持つのと共通ですね。

低学年の生活科の授業では、あき箱やタマゴパックなどを使って学習に転換させることがあるのですが、そういうところにあきびんもあつたらいいですね。

また、給食の時に、あきびんの中にお花を入れて、各グループの机に置くことがあります。子どもたちは、最初ペットボトルでやろうとしたのですが、やはり質感がそぐわず、いろんな形のびんを集めて花器の代わりにしました。それが学校生活の中のひとつの潤いとなり、自分のクラスの給食だけのことから、トイレにも飾ろうということになり、広がっていきました。これもびんを使った楽しい実践だったように思います。

—実は、私たちは、イベントで配るノベルティとして、2年前に「ガラスびんで育てるかいわれ大根」のセットをつくりました。こういうものを教育の場で利用することは可能でしょうか？



かいわれ大根の栽培セットはおもしろい！ ガラスびんは環境教育のいい教材になる。

■ このノベルティは、とってもおもしろいと思います。親しみがあるし、少しずつかいわれ大根が育っていくのを観るのは楽しいですね。環境教育というのは一体化したもので、その中の一部にガラスびんが存在するのですね。ただ、環境教育において3Rを学ぶ上で、教材としてガラスびんは非常にいいものだという気がします。ガラスびんで学んだことが、ガラスびんだけに活かされるのではなく、もっと他に広がっていくように思います。ガラスびん業界としては、びんが環境教育のいい教材になるということをもっと売り込んでいけたらいいですね。

■ このノベルティは美術の授業でも使えるような気がします。自分のクラスで、これがかいわれ大根を育てれば、生徒たちはガラスびんに親しみやすいやすいと思います。教育の場で、このような教材をどんどん活用していけば、いろんな可能性が広がるのではないのでしょうか。

● このノベルティに付いているふたは必要なのでしょうか？

▲ かいわれ大根の栽培が終わっても、何か他の用途に使ってもらえるようにふたが付いています。アフターユースで、ボタンを入れたり、いろいろな使えのが広口びんの良さで、ふた

ができるのがメリットだと、私たちは考えています。このことをうまく活用していただいて、家庭内にガラスびんがある状況を増やせたらとも期待しております。用途としてはふたを使っていただけならいいですね。

ガラスびん和他素材容器を比較していくことで、 びんの良さがクローズアップされていくのでは…

■ 私が思うに、ガラスびんの良さというのは全面に出せるものですから、逆に他素材容器との比較の中で、アピールできるものをあげていくと、子どもたちは納得するのではないのでしょうか。それぞれの容器には、いろいろな良さがあると思います。子どもたちが様々な容器について勉強した中で、最終的に「ガラスびんにはこんなにいいところがあるんだ」と落とし込めるような教材を開発すると、ガラスびんが再認識されるように思います。

子どもたちは、イージーに紙パックやペットボトルがいいと思ってしまっているのですが、発達段階の中で、いろいろ勉強しながら最終的にはガラスびんの良さを理解していくように思います。他素材とガラスびんを比較するような授業設計を、様々な教科の中でつくっていくと、ガラスびんの良さがクローズアップされていくのではないのでしょうか。



ガラスの魅力を伝えることから入って、 ガラスびんにつなげていくアプローチがあってもいい。

● 小学生を相手にガラスびんを扱うのは、ちょっとこわい面もあるように思います。びんは割れにくいとはいえ、子どもたちは、いろんなことをしますので、正直難しく感じることもあります。であれば、ガラスを使った焼き物の授業というのも、考えられます。焼き物は小学校5・6年生の授業で扱いますが、通常の釉薬の代わりにガラスを使うことにより、宝物のような一品ができます。それと、子どもたちが好きなのはビー玉ですね。まずは、そういうもので、子どもたちがガラスに対して魅力を感じてもらうのが一番だと思います。

ごみ問題を考えた時に、ガラスびんは環境的に非常に優秀な容器だと思いますし、私も授業の中でガラスびんの良さを話すのですが、実物を授業で使うとなると悩ましいというのが、正直なところです。ということで、ガラスの魅力を伝えることから入って、ゆくゆくはガラスびんにつなげていくというアプローチの仕方があってもいいのではと、私は思っております。



ガラスびんの3Rの授業について



—実は私たちは、ガラスびんの3Rをアプローチするためのツールをいろいろと作っておりますので、それについて、ご意見をいただきたいと思います。また、ガラスびんの3Rについて、子どもたちに理解してもらうために、どのようなアプローチが必要なのか、お聞きしたいと思います。まずは、リサイクルムービー「びん to びんで行こう!」について、いかがでしょうか？

とても丁寧につくられていて、わかりやすい！
リサイクルのポスターを描かせる時の参考になる。

■ とても丁寧に作られていると思います。子どもたちにも印象がいいのではないのでしょうか。内容も、短い中できちんとわかりやすく説明されていると思います。美術の授業で、ガラスびんリサイクルのポスターを描く前に、このムービーを見せると、アイデアが膨らむのではないかと思います。



● 小学校で見せるとしたら一時停止のボタンを押したいところがありました。それは時計台にリサイクルの流れが映し出されるところです。デザインも凝っているしすごくいい場面なのですが、本当に短い時間で消えてしまう。その部分はもう少し見させてほしいですね。

■ ディズニーのアニメっぽくて、いいなあと思いました。教育の動画には、現実的に生々しく見せるものとメルヘンチックに印象的に見せるものがありますが、いずれにしても、子どもたちがどう感じるかということが大切ですね。正直言って、眠ってしまう子どももいますので、強烈にインパクトを出すことも重要だと思います。



—私たちは、「ガラスびんの3R作戦」というリーフレットをつくって配布しています。これは小学生を対象にしているのですが、このようなツールを制作する時のポイントをお聞かせください。

A4・中綴じ・大きな写真・項目別ページ構成の冊子だと、授業で使いやすく、子どもが調べた感を持てる。

● 子どもたちに単純にアピールしたいのであれば、このようなリーフレットは有効だと思います。ただ授業で扱うのであれば、あっさりし過ぎているかもしれません。私としてはA4サイズで綴じてあって、めくっていける冊子になっていると、授業で使いやすいですね。また写真が大きく出ていて、いろんな項目がページごとになっていると、それを使ってまとめていこうという、アプローチができ、子どもたちがそれを使って調べた感を持てます。

● このリーフレットには、ひとつの紙面にいろんな情報が入っていて、欲張り過ぎの感じがしますね。やはり小学生用には、写真を大きくして、伝えたいことを明確にしたほうがいいと思います。



—当協議会のホームページでは、ガラスびんの3Rについての調べものに対応した内容になっていると思うのですが、ホームページの展開とは別に、そのような冊子が必要でしょうか？

調べ学習の基本は、身近な人に聞いたり、身近なもの、学校や図書館で調べること。

● 小学生ですと、まだパソコンの操作技術がなく、ホームページを見られない子もいます。また、1人に1台のパソコンが使える環境はあまりなく、本校の場合ですと1週間に1回しかパソコンを使えません。またパソコンを使うと、子どもの興味がいろんなところに行ってしまう、集中しない場合があります。最近では、3・4年生の調べ学習の際に、パソコンはあまり使われていませんね。

● やはり学校にパソコンが入ってきて、手軽に使えるようになったときに何でもインターネットで調べるという時期がありました。その反省点が実に多いです。やはり基本は身近な人に聞いてみるとか、身近なもので調べてみるとか、学校や街の図書館で調べてみるということが大切になってきています。

■ 促進協会が出している「ガラスびんBOOK」というのは、小学生向きではないようですが、ルビを振って少し手を加えれば、小学校の調べ学習で十分に使えると思いますね。私の中学校ではポスターを描く前に、これでガラスびんのことを勉強するようにしています。



●「ガラスびんBOOK」の中にあるガラスびんの製造工程とガラスびんの流れのページは、こどもたちがすごく興味を持つと思います。この製造工程の写真をもっと大きくして見開きで見せられたらいいですね。

いろいろなツールを組み合わせると、先生は授業がやりやすく、こどもたちも学習しやすい。

● 授業の構成としては、まず先ほど見たムービーから入って、次に「ガラスびんBOOK」のような冊子で勉強するという段階があるといいですね。何かひとつのツールではなく、いろんな手法のツールを提供していただけたら、先生は使いやすいですね。こどもたちも、いろいろ学習しやすいと思います。

■ こどものたちの目を引くものとして、マンガもいいと思いますよ。びんの3Rを紹介する冊子の導入部で半分くらいがマンガになっていて、その後に資料編が付いていると、こどもたちがページを開いた時にインパクトがありますね。DVDだと映すのに手間がかかり、自分で操作できないかもしれませんが、マンガなら手軽に読めます。ペンギンのキャラクターも活かせますね。

■ 私は様々な教材づくりをしたことがあるのですが、やはりムービーと冊子とワークシートの3点があると、先生方は飛びつくと思います。何かひとつだけだと、授業の中で使うために、いろいろと下準備が必要になります。授業で展開できる3点セットで、こどもたちの興味を引くようなものであれば、先生方は使うと思います。

● いろんな企業から実験キットのようなものが送られてきたりしますが、授業でそれを見せると、こどもたちはとてもよるこび、理解が深まることがあります。例えばカレットやガラスびんのキットがあると、授業がしやすいと思います。

▲ 当協議会では、自治体のリサイクルプラザには、ガラスびんの3Rに関するびんやカレットのサンプルを提供しています。

● そういうガラスびんやカレットにDVDやワークシートを加えて、学校に貸し出すというシステムがあってもいいですね。それを、ホームページや印刷物などで広報すると有効かもしれません。

■ 小学校みたいに資源循環の授業がある場合には、そのようなセットは十分に考えられますね。やはり3Rを学ばせるための教材として、ガラスびんは非常にわかりやすいと思います。そんなガラスびんの教材セットがあれば、使ってみたい先生はいっぱいいるのではないのでしょうか。



教室で教材を使って学習するのもいいが、工場見学等、実際に現場を体験させることも大切。

■ 私たち大人もガラスびんがどのようにリサイクルされているのか、わかっていない部分があります。こどもたちはそれ以上にわかっていないと思います。ですから、ガラスびんの良さをいろんな手法でアピールしたほうがいいですね。もちろん教室で教材を使って学習するのもいいのですが、やはり体験学習は大切だと、私は感じています。実際にガラスびん工場を見学してみるだけで、子どもたちのイメージは変わってくると思います。

▲ 私のカレット工場では、毎年、近隣小学校3・4年生の見学を受け入れていますが、近くの製びん工場では見学コースがなく、受け入れていないのですが、資源化センターと組み合わせると、ガラスびんの一連の流れを体験してもらえたらいいと思っています。

● もし、カレット工場に行った後で、製びん工場を見学できなくても、びんの製造工程を映像で見せていただけたら、こどもたちには伝わると思います。

● 毎年開催されているエコプロダクツ展で、ガラスびんの製造工程の映像を流すと、こどもたちは興味を持つのではないのでしょうか。

● 私たちの学校では、2010年からエコプロダクツ展に、こどもたちを見学に行かせています。いろんなブースを自由に見て、学校に戻ってからまとめ学習をします。促進協議会のブースではどのような展示をしているのでしょうか？

▲ ここ2年ほど、エコプロダクツ展では、「ガラスびんのリサイクルA・Bクイズ」ということで、ガラスびんを排出する際に混ぜてはいけないものを体験するコーナーを設けています。例えば混ぜてはいけない耐熱ガラス製品などを実際に見てもらいます。



食文化や食育の視点から、ガラスびんの魅力をアピールしながら3Rへ。

■ 最後に一言。ガラスびんでなければならぬ場面はたくさんあります。一升びんの日本酒を徳利に入れて飲むというプロセスは、まさに味わいを大切にする食文化だと思います。それは食育にも関わってくることです。そのようなびんの魅力を売りしていくといいですね。

● 食育でガラスびんに親しんで、その流れで3Rを考えるということもあると思いますので、教科にこだわらず、小学生は身近なところから、中学生はもう少し大きな視野からガラスびんを環境教育に扱っていけると思います。

一本日は、環境教育の現状にはじまり、ガラスびんの魅力と3Rの授業について、いろいろと貴重はお話をいただき、ありがとうございました。今回のご意見を次の具体的なアクションにつなげていこうと考えておりますので、今後ともよろしくご願ひ申し上げます。



第17回通常総会を開催。事業報告・決算報告 ならびに事業計画・収支予算が承認されました。

去る6月20日、日本ガラス工業センターの会議室において、ガラスびんリサイクル促進協議会の第17回通常総会を開催しました。当日は会員会社の代表が出席し、平成24年度事業報告(案)・決算報告(案)と平成25年度事業計画(案)・収支予算(案)について審議され、いずれも承認されました。

また新会長には石塚 久継(石塚硝子株式会社 代表取締役社長)、新副会長には神崎 恵(第一硝子株式会社 代表取締役社長)が就任しました。



■ 平成25年度事業計画 ■

1. Reduce対策

- ① ガラスびん軽量化事例の収集と効果的な広報
- ② 2015年第二次自主行動計画目標に向けたガラスびんの軽量化実績のフォロー

2. Reuse対策

- ① 地域や市場特性に合わせたガラスびんリユースシステムの再強化
- ② 「びんリユース推進全国協議会」との連携によるびんリユースの推進
- ③ 関係他団体と連携したガラスびんリユース推進に向けた課題整理と対応策の検討・実行
- ④ 「リターナブルびんポータルサイト」の鮮度維持と情報発信の強化による効果的広報

3. Recycle対策

- ① 全国自治体別のあきびん収集量・再商品化量の情報公開と基礎データの整備
- ② 再商品化量拡大に向けた自治体への個別アプローチ展開
- ③ その他用途事例の情報収集・他用途業者との定期情報交換とホームページを通じた情報発信
- ④ カレット品質向上に向けた啓発情報の継続的な発信

4. 広報対策

- ① 「ホームページ掲載項目の再編・改善」と「びんの3R通信」による情報発信力の強化
- ② 小中学生を対象とした「2013ガラスびん絵画・ポスターコンクール」の展開
- ③ エコプロダクツ2013を始めとしたイベントにおける「ガラスびんの3R」に関する直接広報活動の実施
- ④ 平成24年度制作「ガラスびんリサイクル(びんtoびん)動画」の効果的な展開と「ガラスびんリユース動画」の新規制作
- ⑤ 環境教育の現場教員からのニーズ把握による小中学生向け施策の改善と拡大
- ⑥ 日本ガラスびん協会との連携を強化したガラスびんの魅力アピール策の具体化

「ガラスびん」のさらなる3R推進を図ってまいります。

ガラスびんリサイクル促進協議会 会長 石塚 久継



この度、第17回通常総会(6月20日開催)にて、会長に就任いたしました石塚でございます。就任にあたりましてひと言ご挨拶申し上げます。

当協議会は、2015年度を目標年次としたガラスびん3R推進に向けた第二次自主行動計画を策定しております。今後も国や自治体そして消費者の皆様との連携を強化しながら、引き続き資源循環促進並びに環境負荷低減に向けた、ガラスびんの3R推進に取り組んで参りたいと存じます。

また、皆様ご承知のとおり、本年5月に第三次循環型社会形成推進基本計画が閣議決定されました。最終処分量の削減などに加え、循環の質にも着目した政策が打ち出される中、リデュースおよびびんリユースに対する取り組みの強化や、びんtoびんの水平リサイクル推進等が新たな課題として盛り込まれました。さらに、容器包装リサイクル法の見直しに向けた本格的な審議も予定されています。こうした動きの中、当協議会としてもガラスびん3R推進の取り組みを効果的にアピールしていくことが重要であると考えます。公益財団法人日本容器包装リサイクル協会をはじめ、会員各社のご協力を得ながら効果的な事業展開を図って参りたいと存じます。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成25年度事業計画記者説明会を 日本ガラスびん協会と合同で開催。

7月24日、食品・飲料・酒類業界紙と環境関連紙記者の方々にお集まりいただき、平成25年度事業計画の説明会を、日本ガラスびん協会と合同で開催しました。当協議会からは、平成23年度版の「自治体によるガラスびんの分別収集・再商品化の実績」を発表。引き続きガラスびんの再商品化量の拡大に向けて支援していくことをアピールしました。



平成22年度全国自治体のガラスびん資源化収集の現況と 事例研究報告書を当協議会ホームページに掲載

当協議会では、環境省ホームページに掲載された「平成22年度容器包装リサイクル法に基づく市町村の分別収集及び再商品化の実績について」と当協議会調査の自治体収集・選別方法を合わせてクロス分析し、自治体資源化収集の現況をとりまとめました。

この報告書は、当協議会のホームページ・3R推進状況・リサイクルのコーナーに掲載しています。

●http://www.glass-recycle-as.gr.jp/3r_suishin/recycle.html